

2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	池田理恵
研究課題	妊娠期から育児期の両親の睡眠と抑うつ・愛着の関連					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	池田 理恵	看護学科・准教授	母性看護学	全体統括	
	分担者	川下菜穂子 藤原弘子 高橋澄子 天川慧美 高橋ゆうか	看護学科・助教 博士後期課程2年 博士前期課程2年 博士後期課程2年 博士前期課程2年	母性看護学 母性看護学 母性看護学 母性看護学 母性看護学	データ収集・分析 データ収集・分析 データ収集 データ収集 データ収集	
研究実績の概要	<p>①プレテストとして1か月健診時、産後4か月、産後6か月の母親および父親に、属性、EPDS、PSQI、PBQ、疲労度を問う自記式質問紙調査を実施した。統計パッケージSPSSver. 22を用い、産後うつ病が疑われるEPDS9点以上（以後、高群とする）と9点未満（以後、低群とする）に分け、平均値の差の比較にはt検定、カテゴリカルデータにはカイ二乗検定を実施し、その後重回帰分析を行った。睡眠障害はPSQIの下位項目まで検討した。今回は6か月児の父親を中心に分析した。配布数は31名であった。回収数22名（回収率70.9%）であり、22名（有効回答率100%）を分析対象とした。平均年齢は、32.4±3.73（平均±SD）歳であった。職業は22名全員ありと回答していた。</p> <p>EPDSによる産後うつの平均得点は2.2±2.7（平均±SD）点で、EPDSと家事時間の相関は正のやや強い相関が認められ、育児時間、疲労において、相関は認められなかった。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>産後うつ疑いとされる cutoff 値9点以上を示す人は1名 (4.5%)であった。その1名の特性としては、20歳代後半、就業しており、夫婦関係に問題はなかった。精神疾患は本人に無く、家族の既往もなかった。現在の家事時間は30分～1時間、育児時間は30分～1時間で、疲労度は6点で平均以下であった。PBQ に関しては、Factor1(愛着不全)、Factor2(拒否と怒り)、Factor3(児への不安)、Factor4(虐待リスク)、いずれも cutoff 値以下の数値を示した。睡眠時間は8時間であり、トイレ、育児の理由により夜間の中途覚醒があるが、睡眠の質は「かなり良い」と回答した。PSQI 得点は3点であり、cutoff 値5.5点以下であった。</p> <p>PSQI 得点の平均は3.5 ± 2.2 (平均\pmSD)点で、cutoff 値5.5点以上(睡眠障害あり)の対象者は3名(13.6%)、5.5点未満(睡眠障害なし)の対象者は19名(86.4%)であった。</p> <p>疲労度の平均は6.1 ± 2.8(平均\pmSD)点であった。平均値6.1点を cutoff 値とし、6.1点以上の対象者は11名(50%)、6.1点未満の対象者11名(50%)であった。</p> <p>Factor1 cutoff 値12点以上は0名、Factor2 cutoff 値13点以上は0名、Factor3 cutoff 値10点以上は0名、Factor4 cutoff 値3点以上は0名であった。対象者の愛着障害は認められなかった。</p> <p>PSQI に着目し、疲労、EPDS、PBQ のそれぞれで相関をみたところ、PSQI と疲労において相関はみられなかった。PSQI と EPDS はやや強い正の相関がみられた。PSQI と PBQ の Factor1 においてやや強い正の相関がみられた。また PSQI と Factor2、Factor3 において低い正の相関がみられた。</p> <p>②妊娠期からの両親の縦断的大規模調査の準備として、ウェブアンケートの作成を行い、1病院、2診療所、1助産院の協力を得て、20週～27週の母親に説明書を配布している。現在65名からの回答を得ているが、300～500名程度の回収を目指し、2020年11月まで説明書の配布を行っている。</p> <p>③大規模調査と並行して母子の睡眠を測定するためにアクチグラフを用い、6名の被験者に対し、1週間の睡眠、活動状況を測定した。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. R. Ikeda, Y. Okada, M. Kuroda, K. Ishihara, N. Kawashita: Depression and Sleep Quality of Mothers at 1 Month Postpartum, 2019 AAPINA & TWNA Joint International Conference (2019. 8, Taiwan) 2. R. Ikeda: Depression and sleep quality of mothers at 1 month postpartum, The 10th meeting of the Japan Society of Physiological Nursing (2019. 8, Okayama) 3. N. Kawashita, M. Shiomi, R. Ikeda, Y. Okazaki, S. Nomachi, H. Izumi: A Literature Review of Postpartum Depression Screening, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (2020. 2, Osaka) 4. 池田理恵, 飯草桃香, 小川由華, 西川はる香, 川下菜穂子: 6か月児の父親の睡眠と産後うつ・児の愛着・疲労の関連, 第30回日本医学看護学教育学会学術集会 (2020. 3, 島根)